



学びを通じた交流で、地域のつながりをつくる 「第9回双葉郡ふるさと創造学サミット」開催

「ふるさと創造学」は、双葉郡8町村で行われている地域を題材にした探究的な学習です。12月3日、その学びの成果を共有し合う「ふるさと創造学サミット」が開催されました。

第9回を迎えるサミットは、一部の児童生徒が富岡町文化交流センター・学びの森から、その他の児童生徒は各校から参加する現地・オンライン併用での開催。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインとの併用となりましたが、サミット史上初めて、会場を郡山市から双葉郡内に移しての開催となりました。

子どもたちは「ふるさとの魅力」や「復興の現状」など、自身が学んできたことを工夫を凝らして発表し、意見を出し合って交流を深めました。

福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会HP:<https://futaba-educ.net/>



浪江町に大規模な復興牧場が建設されます —2025年度開場予定—

この牧場では、生乳のほか、搾乳用素牛の育成、堆肥の生産などを行います。生乳は年間1万トン、堆肥は年間1万2千トン生産されます。

また、畜産業再生拠点だけではなく、耕畜連携（堆肥を供給し、飼料を生産する）による循環型農業にもつながります。2022年12月には、大熊町、双葉町、浪江町とトヨタ自動車による連携協定が結ばれて、低炭素な循環型農業、肥料・飼料の地産地消による輸送時CO₂削減などを通じたカーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが進められます。

復興牧場は研究・研修施設を設けた酪農研究の拠点としての基幹施設として期待されていることから、福島大学も研究面、人材育成の両面で関わっていきます。



福島大学公式マスコット
キャラクター めばえちゃん

相双地域支援サテライトの活動

教育環境の整備

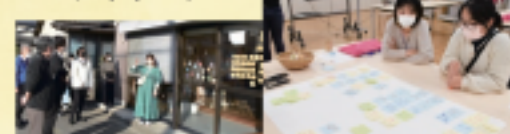
時計組立教室



日本時計協会および時計メーカーエンジニアの皆さんのご協力により、飯館村と広野町で2022年7月、「時計組立教室」を開催しました。時計のグループと目覚まし時計のグループに分かれて、それぞれオリジナルの時計を組み立てます。先生方は皆時計作りのエキスパートで、針の取り付けなどの大切な作業では特に詳しいチェックが入りました。参加した子どもたちは、自分自身で、あるいは友だちと助け合い、自分でイラストを描き、世界で一つだけのオリジナル時計を作り上げました。

地域復興支援

地域内外の人が相互に学び合える場をコーディネート



相双地域外の方が相双地域の復興に触れる・知る機会として、大学生や教職員を対象にスタディツアーを実施しています。11月に行ったスタディツアーでは、相双地域の青景を学んだ上でそれぞれの専門や興味にひまづいた学びが得られるようなプログラムをコーディネートしました。地域内で活動する講師の方と共に参加者が対話や自己表現をすることで、地域課題に対してより深く理解し考える場となりました。

サテライトでは相双地域外の方も地域に関わる事ができる機会を創出してまいります。

大学と地域をつなぐ拠点として

～地域住民に寄り添うサテライトを目指して～



相双地域支援サテライト長
仲井康通

東日本大震災・原発事故から12年、私たちが川内村にサテライトを設置し被災地域の支援活動を始めてから11年が経とうとしています。

この間、道路や住宅・学校・病院等のインフラ整備、福島インベーションコースト構想による拠点整備などが国・県や地元市町村において進められ、被災地域の生活環境は震災前の状況に戻つつあります。一方、帰還後のコミュニティ再生をはじめ、教育環境の整備、高齢者支援、農業の復興などソフト面の整備については思うように進んでいないのが実情です。

私たちは活動を続ける中で、「支援とは地域にとって何か、誰のためにやるのか」を常に考えてきました。

当然のことなのですが、「地域のために」というのが大前提であり、地域の人たちが主体となって取り組みを進められる中で、不足している部分をサポートしていくことが私たちの役割かと思っています。地域の復興に向け、一方的な支援ではなく、地域に根差した活動を皆様と一緒に進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

私事になりますが、この3月で福島大学を退職いたします。大学に在任して11年、これまで大変お世話になりました。復興が進み、住民の方一人一人が安心して暮らせる生活が少しでも早く実現するようお祈りいたしております。



33

2023. 冬号

「相双の風」は、被災地域の今と、福島大学相双地域支援サテライトの取り組みを紹介するニュースレターです。相双地域支援サテライトは被災地と福島大学をつなぐ現地拠点として、被災地域復興に向けた支援活動を行っています。

相双の風



TOPICS | トピックス

広野町～東北に春を告げるまちでミカン狩り～

広野町は冬の平均気温が10度を超える温暖な気候を生かして温州ミカンを栽培しています。キャッチフレーズは「東北に春を告げるまち」。

12月9日、太平洋を望む「みかんの丘」で、こども園の園児たちによるミカン狩りが行われました。

「温暖で住みやすい気候のアピールになれば」と町がミカンの栽培を始めたのはおよそ30年前。役場の南西側、海に見える高台におよそ150本のミカンの木を植えて「みかんの丘」を整備しました。ミカン狩りは冬の恒例行事で、震災後一時中断していましたが2013年に再開。ミカンを使った特産品の開発も行われていて、「みかんの丘」で収穫されたミカンはジュースやマーマレードとして販売されています。

こども園の子どもたちは、たわわに実ったミカンに大はしゃぎ。

今年も東北に春を告げるまちの「みかんの丘」に、子どもたちの元気な声が響きました。



広野町



広野町
Hirono town

広野町文化交流施設
「ひろの未来館」オープン



広野町文化交流施設「ひろの未来館」は、歴史文化の継承と世代や地域を超えて相互交流が生まれる拠点として、2022年4月にオープンしました。館内には、町がこれまで収集してきた化石、埋蔵文化財等の保管・展示のほか、町の偉人である芥川賞作家・高澤有為男(とみざわ・ういお)氏の作品と、「とんぼのめがね」を作詞した額賀誠志(ぬかが・せいし)氏にまつわる汽車の資料を展示しています。子どもたちの学習や地域住民の皆さんが様々な活動に利用できる交流室も設けています。ぜひお立ち寄りください。

檜葉町
Naraha town

母子手帳アプリ
「ならはっ子 てくてくナビ」

檜葉町では、妊娠期から子育て期にあるご家庭を継続的にサポートする子育てアプリ「母子モ」を導入し、「ならはっ子 てくてくナビ」として運用を開始しました。

檜葉町の各種制度・サービスの案内などを随時配信いたしますので、子育ての情報を得るためのツールとして、ぜひご活用ください。

- ▶スマートフォンの場合: アプリストアから「母子モ」で検索
- ▶Web版の場合: <https://www.mchh.jp>



「母子モ」
アプリインストール

富岡町
Tomioka town

2022年産米から、
カントリーエレベーターが
稼働しました!



富岡町カントリーエレベーターは米の乾燥、貯蔵、調製、出荷までを一貫して行うことができる最先端の技術を備えた施設です。また、隣接地(写真左側)に、乾燥、貯蔵機能を保有するタマネギの集出荷施設を建設する整備に着手しています。これらの施設は町の営農促進の後押しとなり、富岡町の基幹産業「農業」の未来を支えています。

川内村
Kawauchi village

3年ぶり
「川内の郷
かえるマラソン」開催



9月25日に「川内の郷かえるマラソン」が開催されました。村の小学生の発案で2016年に始まった「かえるマラソン」。同じ「川内」が緑でプロランナー川内優輝さんが走ることで有名です。3年ぶりの開催となった今年は、全国から1228人のランナーが参加。ご当地エイド、野菜工場(株)KiMiDoRiのスムージーや夢工房の手打ちそばも大好評。参加者はそれぞれのペースで走りながら、川内村でのひとときを楽しみました。

大熊町
Okuma town

今年も完成!
とばろま
帰忘郷あまざけ



2022年度製造の「帰忘郷あまざけ」が販売開始となりました。昨年は25%使用だった大熊町産の酒米「五百万石」。今年は50%も使用するなど、少しずつ変化しています。ぜひ「今年の味」をご堪能ください! 一般社団法人おおくままちづくり公社事務所での販売はもちろん、町内の商業施設などでも購入が可能です。今後インターネットでの販売も予定しておりますので、お楽しみに!



「帰忘郷」
誕生ヒストリー

双葉町
Futaba town

住む拠点となる
「えきにし住宅」の
入居が始まりました!



JR双葉駅西側に「住む拠点」として整備を進めている「えきにし住宅」全86戸のうち、タウンハウスタイプの住宅25戸が完成し2022年10月1日から入居が始まりました。

この住宅は「なりわい集落」をコンセプトとしており、帰還する町民のほか、移住する人も入居可能です。

また、今後戸建て住宅も完成しますので、この機会に自然に囲まれた双葉町に移住を検討されてみてはいかがでしょうか?



えきにし住宅
HP

浪江町
Namie town

明るく楽しく
安全な駅前を
みんなの手で



12月6日に今年で4回目となる浪江駅前のイルミネーションの点灯式を行いました。「夜になると街中が暗い、明るい景観をつくれないう」という声から始まったイルミネーション。

今年は町内外の方に浪江町の思い出の場所などを書いていただいたアクリルボックスを使って装飾をしています。3月末まで点灯予定ですので、浪江駅へお越しの際はぜひご覧ください!

葛尾村
Katsurao village

「ツール・ド・かつらお」開催



葛尾村を競技用自転車などで走るイベント「ツール・ド・かつらお〜第8回福島民報杯〜」が11月5・6の両日にわたり開催されました。全国でも有数の距離と高低差を誇るツール・ド・かつらお。高低差400メートル以上の難コースをものともせず、県内だけでなく全国から108人が参加し、秋晴れの村内を駆け抜けました。開催を記念し、葛尾村復興交流館あぜりあでは「あぜりあ市」も同時開催され大勢の人で賑わいました。

飯館村
Iitate village

温かいおもてなしの田舎レストラン



田舎レストラン「La Kasse」(ラカッセ)は、飯館村で生まれ育ったオーナーシェフの佐藤雄紀さんが10年間の修行を経て、2022年6月に独立開業した洋食レストランです。佐藤シェフが、ご自身の持っている技術で「食」の分野から飯館村の復興と元気を支えたいとの思いから開いたレストランで、地元の飯館村をはじめ福島県産の食料をふんだんに使った料理を提供しています。

寒い冬のひとときを、温かいおもてなしの「La Kasse」で過ごしてみたいいかがでしょうか?

- ▶田舎レストラン La Kasse (ラカッセ) TEL.0244-42-1228
- ▶飯館村二枚橋字本町193-3 定休日/月曜日、木曜日
- ▶営業時間/11:00~15:00(ラストオーダー14:00)、17:00~20:00(予約のみ)

田村市
Tamura city

「みやこじの里」
今年もできました



「ふるさとのおいしいお米で作った日本酒を飲んでほしい」との思いを込め、都路地区の認定農業者が丹精込めて作った「都路産チヨニシキ」を使った日本酒「みやこじの里」が今年も完成しました。フルーティーで爽やかでありながら深い味わいの「みやこじの里」は日本酒の苦手な方も楽しめる一品です。3月1日までの期間限定で火入れ前の生酒の予約を受け付けています。生酒は今の時期しか飲めない限定品です。ぜひ一度ご賞味ください。

- ▶田村市都路行政局 産業建設係 TEL.0247-75-3550

南相馬市
Minamisoma city

「目標は千年続く
ブランドを作ること」



2021年にオープンした南相馬市小高区の酒蔵「haccoba-Craft Sake Brewery」では、伝統的な日本酒の製法をベースにビールの原料であるホップを入れるなど、自由な醸造スタイルで酒造りをしています。東京から移住し、haccobaを立ち上げた代表の佐藤太亮さんは「目標は千年続くブランドを作ること」と語ります。今年は浪江町での酒造りも始まる予定で、2年後にはベルギーでの酒造りも目指しているそう。haccobaには、ガラス張りの酒蔵を眺めながらお酒や料理を楽しむことができるブリューバも併設しています。ぜひ足を運んでみてください。



haccoba
公式LINE

川俣町
Kawamata town

おきがるマルシェ&
バイクイベント開催!



11月6日(毎月最初の日曜日)にとんやの郷で開催された「おきがるマルシェ」には、おふかし、焼きそば、焼き鳥、ケバブ、ワッフルなどたくさんの出店が集い来場者をもてなしました。当日はバイク記念撮影イベントが同時開催されており、社会福祉協議会の呼びかけで集ったジュニアボランティアの皆さんは、大勢のライダーへの販売のお手伝いを通して、マルシェの楽しさと感動を体験しました。

より多くの皆様にお楽しみいただけるマルシェを目指しますので、ぜひお立ち寄りください。

- ▶お休み処 とんやの郷 TEL.024-563-2021



とんやの郷
Instagram